

広葉樹を暮らしに活かす山形の会

〔共同代表 清和研二・佐藤恒治〕

《団体紹介》

2018年に設立した任意団体で、川上・川下・川中に関わる県内30人の有志が集結しました。

燃料革命により薪炭用材の生産が低迷してから半世紀以上が経過し、山形県内の森林面積の2/3を占める広葉樹林には用材として利用可能なものが増加しており、これまで注目されてこなかった広葉樹資源を価値の高い用材として利用することは地域再生につながるものと考えられます。

しかし、山形県の広葉樹資源や利用に関する情報は極めて少なく、実態を知るためには川上、川中、川下の動向を直接かかわりを持っている人に聞き取るしかないという現状です。

当会は、このような現状を踏まえ、広葉樹資源や利用の実態を調査しながら、県産広葉樹の安定的な生産・流通体制の整備を目指して取組みを進めております。

《今年度の取組み》 ☆が緑環境税活用事業です。

1. 「暮らしに山形の木を活かすワークショップ」の開催 ☆

10月2日・3日の2日間 みはらしの丘「はらっぱ館」にて開催 230人の来場者がありました。

【マイ箸づくり】

【カッティングボード】

【オリジナルカッター】

【積み木で遊ぼう】

【作品展示】



2. 森林資源調査の実施



ブナ林のプロット調査



UAVによる空撮



調査メンバー

昨年に続き2カ所を調査し併せて6カ所のデータを取りまとめ中です。結果については、別の機会に報告したいと思います。

3. 「広葉樹を暮らしに活かすシンポジウム」の開催 ☆

昨年は、11月22日に山形テルサにて開催しました。今年度は、11月23日にやまがたの森づくり発表会と同時、同場所(山形ビッグウイング)にて開催します。なお、写真は今年の記録です。



【基調講演】



【展示品解説】



【パネルディスカッション】



【会場風景】

《今後に向けて》

設立4年目を迎え、当会の最大のねらいである「地元の資源を地元の関係者の手によって製品化する」ことを実現するための取組みを積極的に展開していきます。

また、これまで外部への情報発信や体験プログラムの提供を行い、様々な反響をいただきました。引き続き、資源・流通実態調査や一般向けの体験イベント等を展開していきます。